

公 告

(参加意思確認公募)

独立行政法人国際協力機構筑波センター（JICA 筑波）が、2021 年度に実施する予定の案件に関し、別紙のとおり、公募参加確認書の提出を招請します。

なお、本件公告に関する問い合わせは、JICA 筑波 総務課（電話：029-838-1113、担当：戸塚 眞治）宛にお願いします。

2020 年 12 月 21 日

独立行政法人国際協力機構
筑波センター 契約担当役
所長 渡邊 健

研修事業に係る圃場整備及び農業研修支援業務委託契約（2021年度～2025年度）
に係る参加意思確認公募について

独立行政法人国際協力機構筑波センター（以下「JICA 筑波」という。）は以下の業務について、別紙のとおり参加意思確認書の提出を公募します。

本業務は、JICA 筑波が実施する農業分野の技術研修員受け入れ事業実施に際して使用する圃場管理・栽培管理並びに施設・工作機械・農業機械の維持管理、資材の維持管理、研修の事前準備と事後整理に係る作業補助を通じて、円滑な農業分野の研修を実現することを目的として行うものです。

本業務の遂行にあたっては、株式会社川上農場（以下「特定者」という。）を契約の相手先として、契約を締結する予定です。

特定者は、1981年に旧JICA国際農業研修センター（現JICA筑波）が圃場、その他農業関連の施設を利用して農業分野の研修を開始して以来35年間にわたって圃場管理及び農作業補助業務を受託しています。

個人事業主が自ら所有する農地において農業を行うことを原則とする我が国の農業経営事情を勘案すると、圃場管理や農作業補助を受託する団体はほとんど存在しないと想定されます。本業務についても、過去、数回にわたって競争に付してきましたが、同社の一者応募、一者応札が続いています。

また、特定者がこれまで行ってきた業務の中には、農業機械化コース及び農業機械設計コース等、農業機械分野研修の補助も含まれていることから、同社には農業機械研修分野の補助業務内容を熟知しており、その知見や経験が集約されています。

このことから、以下の「2 応募要件」を満たし、本件業務を適切に実施し得る要件を備えています。特定者以外の者で応募要件を満たし、本業務の実施を希望する者の有無を確認する目的で、参加意思確認書の提出を招請する公募を実施します。

1 業務内容

- (1) 業務名： 研修事業に係る圃場整備及び農業研修支援業務委託契約
（2021年度～2025年度）
- (2) 業務の目的： 農業研修施設・農業機械・農具・資材の維持管理と農業機械・工作機械の操作補助、ならびに研修の事前準備と事後整理に係る農作業補助を通じた、円滑な農業分野研修の実現。
- (3) 実施方針及び留意事項： 業務仕様書（別添）のとおり
- (4) 業務内容： 業務仕様書（別添）のとおり
- (5) 履行期限： 2021年4月1日～2026年3月31日

2 応募要件（注：以下のうち該当する要件を記載）

- (1) 基本的要件：
 - ① 公示日において、令和 01・02・03 年度全省庁統一資格の「役務の提供等」の「A」又は「B」又は「C」又は「D」の等級に格付けされ、の競争参加資格（以下「全省庁統一資格者」という。）を有する者。
 - ② 契約事務取扱細則第4条第1項第2号の規定に該当しない者。
具体的には、会社更正法（平成14年法律第154号）又は民事再生法（平成11年法律第225号）の適用の申し立てを行い、更生計画又は再生計

画が発効していない者は、参加意思確認書を提出する資格がありません。

- ③ 当機構から「独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程」（平成20年10月1日規程（調）第42号）に基づく契約競争参加資格停止措置を受けていない者。具体的には以下のとおり扱います。
- ・ 資格停止期間中に提出された参加意思確認書は、無効とします。
 - ・ 資格停止期間中に公示され、参加意思確認書の提出締切日が資格停止期間終了後の案件については、参加意思確認書を受付けます。
- ④ 日本国で施行されている法令に基づき登記されている法人である者。
- ⑤ 以下を要件のいずれにも該当しないこと、また、当該契約満了までの将来においても該当することはないことを誓約する者。

競争から反社会的勢力を排除するため、参加意思確認書を提出しようとする者（以下、「提出者」という。）は、以下のいずれにも該当しないこと、および、当該契約満了までの将来においても該当することはないことを誓約して頂きます。具体的には、参加意思確認書の提出をもって、誓約したものとします。

なお、当該誓約事項による誓約に虚偽があった場合又は誓約に反する事態が生じた場合は、参加意思確認書を無効とします。

- ア. 提出者の役員等が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力団等（これらに準ずるもの又はその構成員を含む。平成16年10月25日付警察庁次長通達「組織犯罪対策要綱」に準じる。以下、「反社会的勢力」という。）である。
- イ. 役員等が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2号第6号に規定する暴力団員でなくなった日から5年を経過しないものである。
- ウ. 反社会的勢力が提出者の経営に実質的に関与している。
- エ. 提出者又は提出者の役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。
- オ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与している。
- カ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。
- キ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。
- ク. その他、提出者が茨城県暴力団排除条例（平成22年茨城県条例第36号）に定める禁止行為を行っている。

(2) その他の要件：以下の資格、認証等を有すること。

1) 技術力に関する要件

本業務委託契約実施に十分な技術力を有すること。

2) 業務執行体制に関する要件

業務を統括するための業務主任を選定し、機構担当職員と密接な連絡を保ちつつ、補助業務が円滑に進むような体制を構築すること。

3) 全省庁統一資格者である者

3. 競争参加資格の確認等

本競争の参加希望者は、参加の意思及び上記2. に掲げる応募要件を満たすことを証明するため、次に従い、契約担当役から競争参加資格の有無について確認を受けなければなりません。なお、期限までに必要な書類を提出しない者及び競争参加資格がないと認められた者は、本競争に参加することができません。

* 提出書類について：各種フォーマットは下記（参考）にある URL から入手ください。

(1) 参加意思確認書（様式1）

(2) 競争参加資格確認申請書

注：フォーマットの「本部契約担当役 理事」を「JICA 筑波センター契約担当役 所長」とし、「(国契-〇〇-〇〇〇)」は削除ください。

(3) 全省庁統一資格審査結果通知書（写）

(4) 誓約書（様式2）

(5) 下見積書

(参考) 競争参加資格確認申請書

・ 国際協力機構ホームページ (<https://www.jica.go.jp/index.html>)

・ 競争参加資格確認申請書フォーマット

<https://www.jica.go.jp/announce/manual/form/domestic/proposal.html>

4 手続きのスケジュール

(1) 参加意思確認申請書の提出	提出期間	2020年12月21日（月）午前10時から 2021年1月6日（水）午後4時まで
	提出場所	〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6 （独）国際協力機構 筑波センター 総務課 電話 029-838-1113 ファクシミリ 029-838-1119 担当：戸塚 眞治
	提出書類	参加意思確認書、2 応募要件に求められる実績等を証明する資料（写し可）
	提出方法	持参又は郵送（書留としてください。）
(2) 審査結果の通知	通知日	2021年1月8日（金）
	通知方法	郵送
(3) 応募要件無しの理由請求	請求場所	(1) 提出場所と同じ
	請求方法	持参又は郵送（書留としてください。）
	回答予定日	2021年1月15日（金）
	回答方法	郵送

5 その他

- (1) 提出期限を過ぎて提出された参加意思確認書等は無効とします。
- (2) 参加意思確認書等の作成及び提出に係る費用は、提出者の負担とします。
- (3) 提出された参加意思確認書等は返却しません。
- (4) 機構は提出された参加意思確認書等を、参加意思確認書等の審査の目的以外に提出者に無断で使用しません。
- (5) 提出期限以降における参加意思確認書の差替え及び再提出は認めません。
- (6) 審査の結果、応募要件を満たさなかった者は、書面によりその理由について説明を求めることができます。(上記3(3)を参照ください。)
- (7) 公募の結果、応募要件を満たす者がいない場合は、特定者との随意契約手続きに移行します。また、応募要件を満たす者がいる場合は、指名競争入札(総合評価落札方式)または指名による企画競争を行います。その場合の日時、場所等の詳細は、応募要件を満たす者及び特定者に対して、別途連絡します。
- (8) 予算その他機構の事情により、当該手続きを中止する場合があります。

担当部課：独立行政法人国際協力機構 筑波センター 総務課
電話 029-838-1113 ファクシミリ 029-838-1119
戸塚 眞治 (Totsuka.Shinji@jica.go.jp)

以上

2020 年 月 日

参加意思確認書

独立行政法人 国際協力機構
筑波センター契約担当役
所長 渡邊 健 殿

提出者 (所在地)
(貴社名)
(代表者役職氏名)

「研修事業に係る圃場整備及び農業研修支援業務委託契約（2021 年度～2025 年度）に係る参加意思確認公募について」に係る応募要件を満たしており、業務への参加を希望しますので参加意思確認書を提出します。

記

1 法人概要

※法人概要について記載（パンフレット等で代用できる場合は、パンフレットを添付してください。）

2 応募要件

(1) 基本的要件：

※公募に掲げる応募要件を満たしている状況等について記載してください。サイズ：A4 縦、記載しきれない場合は別紙添付でも可。

※「3. 競争参加資格の確認等」* 提出書類について参照し必要書類を添付してください。

(2) その他の要件：

特定の資格、認証等が指定されている場合には、当該資格、認証等の取得状況が分かる証明書を提出してください。

以 上

提出日： 年 月 日

誓 約 書

独立行政法人 国際協力機構
筑波センター
契約担当役 殿

「研修事業に係る圃場整備及び農業研修支援業務委託契約」にかかる競争参加資格の確認を受けるに際し、以下に記載の事項について誓約します。

なお、当該記載事項に係る誓約に虚偽があった場合又は誓約に反する事態が生じた場合は、競争参加資格が無効となることに同意します。

住 所
法 人 名
法 人 番 号
役 職 名
代 表 者 氏 名

役職印

1 反社会的勢力の排除

競争から反社会的勢力を排除するため、以下のいずれにも該当しないこと。

- ア. 競争参加者又は役員等が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力団等（これらに準ずるもの又はその構成員を含む。平成16年10月25日付警察庁次長通達「組織犯罪対策要綱」に準じる。以下、「反社会的勢力」という。）である。
- イ. 役員等が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2号第6号に規定する暴力団員でなくなった日から5年を経過しないものである。
- ウ. 反社会的勢力が提出者の経営に実質的に関与している。
- エ. 参加者又は参加者の役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。
- オ. 参加者又は参加者の役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与している。
- カ. 参加者又は参加者の役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。
- キ. 参加者又は参加者の役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。
- ク. その他、参加者が茨城県暴力団排除条例（平成22年茨城県条例第36号）に定める禁止行為を行っている。

2 個人情報及び特定個人情報等の保護

社として「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」及び「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）（平成26年12月11日特定個人情報保護委員会）」に基づき、個人情報及び特定個人情報等（※1）を適切に管理でき

る体制を以下のとおり整えていること。

(中小規模事業者(※2)については、「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）」別添「特定個人情報に関する安全管理措置」に規定する特例的な対応方法に従った配慮がなされていること。)

- ア. 個人情報及び特定個人情報等の適正な取扱いや安全管理措置に関する基本方針や規程類を整備している。
- イ. 個人情報及び特定個人情報等の保護に関する管理責任者や個人番号関係事務取扱担当者等、個人情報及び特定個人情報等の保護のための組織体制を整備している。
- ウ. 個人情報及び特定個人情報等の漏えい、滅失、き損の防止その他の個人情報及び特定個人情報等の適切な管理のために必要な安全管理措置を実施している。
- エ. 個人情報又は特定個人情報等の漏えい等の事案の発生又は兆候を把握した場合に、適切かつ迅速に対応するための体制を整備している。

(※1) 特定個人情報等とは個人番号（マイナンバー）及び個人番号をその内容に含む個人情報という。

(※2) 「中小規模事業者」とは、事業者のうち従業員の数が100人以下の事業者であって、次に掲げる事業者を除く事業者をいう。

- ・ 個人番号利用事務実施者
- ・ 委託に基づいて個人番号関係事務又は個人番号利用事務を業務として行う事業者
- ・ 金融分野（金融庁作成の「金融分野における個人情報保護に関するガイドライン」第1条第1項に定義される金融分野）の事業者
- ・ 個人情報取扱事業者

以 上

業務仕様書

この業務仕様書は、独立行政法人国際協力機構筑波センター（以下「発注者」）が実施する「研修事業に係る圃場管理及び農作業等補助等業務委託契約」に関する業務の内容を示すものです。本件受注者は、この業務仕様書に基づき本件業務を実施します。

1. 業務の背景

発注者は開発途上国から農業分野（野菜栽培、稲作分野）の技術研修員¹の受け入れを通じ、開発途上国の国づくり人づくりの支援事業を実施している。このため、発注者は自前の施設・設備と機材等を所有（一部借用）している。

農業分野の研修は農作物を対象としているため、季節や気象に合わせた圃場や温室等にかかる各種の環境整備（土壌改良、耕起、育苗、植え付け、水管理、施肥管理、雑草・害虫の駆除、収穫等の作業）等を適期に行うことが不可欠である。このため本契約は、これら環境整備等に係る支援業務について発注するものである。

2. 業務の目的

受注者は発注者の農業分野の技術研修員受け入れ事業実施に際して使用される農業研修施設（圃場、温室・網室等）の管理、施設・農業機械・農具・資材の維持管理と農業機械・工作機械の操作補助、ならびに研修の事前準備と事後整理に係る農作業補助を通じて、円滑な農業分野研修を実現することを目的とする。

3. 履行期間

2021年4月1日～2026年3月31日

4. 業務の概要

(1) 業務の対象となる圃場、施設、農業機械等

1) 圃場

① 場内圃場（別紙1参照）

- ・水田 2,100 m²
- ・畑 3,620 m²

② 場外圃場（借用地）（別紙2参照）

- ・水田 4,947 m²
- ・畑 30,096 m²

¹ 技術研修員とは開発途上国の政府等から派遣された政府等の行政官（普及員）、技術者、研究者等であり、我が国での研修を通じて知識や技術を習得し、帰国後、それらの知識・技術を活用し、母国の経済発展や同国民の生活水準の向上に資する者である。

2) 施設

① 場内圃場（別紙 1 参照）

- ・実習棟（農業機械実習棟：1 階工房 690.3 m²、2 階 679.3 m²、野菜実習棟：540 m²、稲作実習棟：496.8 m²）
- ・温室（10 棟）※温室 1 棟の面積：140 m²（7m×20m）
- ・網室（4 棟）
※温室、網室 14 棟の合計面積：2,219 m²
- ・ビニルハウス 6 棟（栽培用 2 棟、かんがい用 1 棟、資材用 3 棟）
- ・農業機械庫：198 m²
- ・堆肥庫兼土壌消毒室：162 m²
- ・農薬庫、農具庫、肥料保管庫（同一の建物）の合計面積：108 m²
- ・収穫後処理施設室：126 m²
- ・環境制御室→※現在は資料置き場として使用
- ・堆肥舎：110 m²
- ・少量危険物貯蔵取扱所：6.741 m²

② 場外圃場

- ・ビニルハウス 15 棟（野菜栽培用 12 棟、稲作用 1 棟、資材用 2 棟）

3) 主要農業機械、工作機械等²

① 主要農業機械（詳細は別紙 3 の主要機材リスト参照）

- ・ライスマル、コンバイン、トラクター、バックホー、乾燥機、土壌消毒機、乗用田植え機、堆肥散布車、フォークリフト、小型穀類選別機、粃摺り機 等

② 主要工作機械（詳細は別紙 3 の主要機材リスト参照）

- ・高速切断機、旋盤、プラズマ切断機、スポット溶接機、溶接機、フライ

² 農業機械や温室のボイラー等の燃料、及び農薬、肥料は発注者が購入する。燃料はガソリン・軽油（農業機械用）、白灯油（温室ボイラー、粃乾燥等用）の 3 種類ある。これらの購入実績購入実績（2017～2019 年度平均）は以下のとおり。単位はリットル。

	灯油	軽油	ガソリン
第 1 四半期	45.3	336.0	93.0
第 2 四半期	6.0	282.3	129.0
第 3 四半期	151.3	300.0	33.0
第 4 四半期	607.0	156.7	24.0
合計(平均)	202.42	268.75	69.75

受注者は購入時の補助、及び 6. 業務提出物等の（2）業務提出物（月 1 回）の 1）～ 4）のとおり、機材の故障、施設の破損等の発注者への適宜報告や農薬、肥料、燃料等の危険物等の使用実績及び在庫管理の毎月の定期報告等を行う。

ス盤 等

- ③ 病害虫・害獣等対策資材
 - ・防鳥ネット
 - ・寒冷紗製防虫ネット
 - ・ウサギよけネット
 - ・防風ネット
 - ・遮光ネット
- ④ 農薬：殺虫剤、殺菌剤、除草剤、その他（使用実績は別紙4参照）
- ⑤ 肥料：化学肥料、有機質肥料、堆肥

（2）業務の内容

受注者は善良な管理者としての注意義務をもって、以下の1）～5）の業務を行う。

1）栽培管理支援

場内圃場、場外圃場、及び温室・網室等の栽培管理を支援する。研修事業の一環として研修業務委託先（後述）や技術研修員が栽培管理を行うため、栽培に係る全体管理は発注者の責任で行う。受注者は、農業分野の専門家として栽培管理を支援する。

具体的な栽培管理支援の内容は、生育状況・環境の維持管理、栽培資材の準備、土壌・種子の前処理、資材整理、清掃、除草、散水等がある。栽培作業に係る主要項目及び、スケジュールについては「5. 年間の主要作業」を参照のこと。

栽培する主な作物は以下のとおりである。

稲： インディカ米（IR 種³）、日本米（あきたこまち、ひとめぼれ等の水稲、陸稲）、ネリカ⁴（陸稲）

野菜： 温室、露地で主に次のものを栽培する。トマト、ナス、スイカ、パプリカ、キュウリ、キャベツ、ブロッコリー、ダイズ、サツマイモ、パレイショ、ダイコン、タマネギ、ニンジン、ラッカセイ、トウモロコシ等

なお、野菜の品種は技術研修員の研修テーマにより、年によって一部異なる場合がある。

① 場内圃場

水田では水稲と陸稲品種の施肥・栽培・選抜試験や採種を、畑では陸稲の品種比較試験と生産実習や野菜の栽培試験を行う。

³ 国際稲研究所で育成された稲であり、品種ごとに「IR+番号」の名称がつけられる。

⁴ New Rice for Africa の略（NERICA）。アジア種とアフリカ種の交配品種の総称。

② 場外圃場

水田では栽培試験や代掻き・田植え・収穫等の機械利用実習を、畑では施肥・栽培・採種試験を行う。

③ 温室・網室等

場内圃場では温室は野菜や稲作の栽培や採種の試験と実習を行っているものが7棟、育苗を行う育苗温室1棟、病理実験を行う病理温室2棟の計10棟ある。網室4棟とビニルハウス2棟ではポット試験や養分欠乏試験を行う。

場外圃場ではビニルハウス12棟で野菜の栽培試験、ビニルハウス1棟で稲作の栽培試験等を行う。

2) 農業機械の操作

栽培管理支援の一環として、圃場準備のための水田、畑の耕耘、中耕、水稲作における代掻き、田植え、水稲・陸稲における収穫（圃場の使用目的によりコンバイン、バインダー、リーパー等を使い分ける）において農業機械を操作する。稲作については、農業機械利用実習等に係る技術研修員（※研修員数10～13名程度）の農業機械の操作を補助する。農業機械の操作にあたっては作業安全に留意する。

3) 施設、農業機械、農具、資材の管理

① 施設の管理

農業機械実習棟、農業機械庫、堆肥庫兼土壤消毒室、農具庫、農薬庫、肥料保管庫、収穫後処理施設室、農機具等資材庫、環境制御室、堆肥舎、少量危険物貯蔵取扱所等の管理を行う。施設に異常があった場合の発注者への報告、軽微な異常が発生した場合の応急措置等をする。農薬庫、肥料保管庫は毎日の施錠確認、漏洩の有無、化学物質等安全データシート（MSDS）確認等、また少量危険物貯蔵取扱所⁵は施錠の確認、漏洩の有無、保管容器内の適量遵守等により、それぞれ安全管理も行う。

② 農業機械、農具、資材の管理

農業機械、農具等は適時に円滑に使用できるよう日常的に維持管理を行う例：整理、整頓、清掃の3S)。農業機械は農閑期の晩秋～冬にかけ、メンテナンス・修理を代理店等に依頼するが、その場合に発注者を補佐する。

⁵ 第四類 引火性液体を取り扱う。

品名		最大数量（リットル）
第一石油類	ガソリン等	60.9
第二石油類	軽油等	225.7
第三石油類	切削油等	76.2
第四石油類	潤滑油等	70.1

資材に関しては使用実績及び在庫の管理を行う。

4) 付帯的な業務

① 個別研修に係る圃場管理、農作業補助

野菜栽培や稲作の他に、1日～数日程度の単発の研修に係る農作業が発生する場合がある。

② 一般市民向け農業イベント準備・実施作業

科学技術週間⁶、ちびっ子博士⁷、田植え祭(さなぶり)⁸と収穫祭⁹がある。イベントの準備には稲の育苗から収穫までの栽培管理、収穫後処理が含まれる。対象田については別紙1の場内圃場図参照のこと。収穫祭等一般の来訪客が鎌等を使用する行事では適正な使用方法の紹介等安全管理に留意する。

③ 研修、訓練等

環境マネジメント研修と緊急事態発生模擬訓練¹⁰を年一回同じ時間帯に続けて実施する。研修と訓練を合わせて1時間程度。

④ 機具の修繕

農機具や実験器具の軽微な破損を修繕することがある。

⑤ その他

かんがい排水コース関連対応、圃場管理・農作業、農業機械の維持管理に伴い発生する栽培作物残渣、産業廃棄物の対応等

5) 全体調整業務

① 圃場管理及び農作業補助に係る年間作業計画の作成、作業実施に係る人員配置調整、定期的な見直し。

② 農薬・肥料・燃料等資材の使用実績及び在庫管理報告(毎月)の提出。

⁶ 文部科学省主催の国民に科学技術に関心を持たせるイベントで発注者も参加。4月の第三土曜日に農業機械実習棟で行う一般公開イベントの準備、食堂の特別ランチ及び来客者配布用の長粒米の精米のほか、市民の脱穀体験用農機具(3種)の設営等の準備を補助する。なお、事前の準備補助のみであり当日のイベントの補助は行わない。

⁷ つくば市が市内の研究所等の協力を受け、夏休み期間に子供を対象に実施する学習イベントであり発注者も参加。通常7月下旬(1回、午前11時から1.5時間程度)に脱穀体験プログラム用の農機具(3種)、稲束等の準備を補助する。なお、事前の準備補助のみであり当日のイベントの補助は行わない。

⁸ 毎年5月中旬の土曜日に発注者所有の場内水田圃場(420m²)で地元市民と研修員交流を目的とした一般公開の田植えを午前10時半から2時間程度行う。田植え用の育苗、当日の一般来訪者及び研修員等の田植えを補助する。

⁹ 毎年9月中旬の土曜日に田植え祭をした圃場で一般公開により稲の収穫作業を午前10時半から2時間程度行う。鎌(約30本、発注者備品)や結束紐等の収穫用道具・消耗品準備、当日の一般来訪者や研修員等の刈取り補助や稲束のはざかけ等を行う。

¹⁰ 地震等の天災による①温室ヒーターの灯油漏洩、②農業機械への給油中の燃料飛散、③農薬保管庫の農薬飛散への迅速な対応を行えるよう模擬訓練を実施する。

③ 農業関連研修コースの進捗確認会議への出席¹¹

5. 業務実施上の留意事項

(1) 研修業務委託先との関係

発注者は、研修業務を農業分野（野菜栽培、稲作等）の専門性を有する外部団体（以下「研修委託先」という：別紙8参照）に委託して実施している。研修内容の詳細は、研修委託先との打合せに基づき決定され、決定された詳細内容に基づき、業務の実施内容や実施スケジュールが調整されることとなる。

具体的な調整内容は、発注者が指示することとなるが、業務を円滑に実施するためにも、受注者も、研修委託先との情報交換等を十分行う。

(2) 柔軟な対応と相談

業務内容の特性から、天候等により、業務内容、スケジュール等を柔軟に変更する必要がある。基本的には作業の手順、手段、方法等については受注者の裁量であるが、圃場管理や農作業に支障が生じるレベルの問題が発生した／発生が予見される場合は、発注者に速やかに報告・相談すること。

(3) 発注者の便宜供与

- 1) 発注者は本業務を発注者の事務所内で行わせる場合に、本業務に必要な事務所スペース及び机、椅子等の物品を無償で受注者に使用させる。
- 2) 1) の場合において、光熱水料費、通信費（発注者が本業務に必要と認めるものに限る）は発注者の負担とし、その他は受注者の負担とする。

(4) 業務実施上の条件

業務を円滑に実施するため、年間を通じ、平日の午前9時から午後5時までは、昼食休憩時間1時間を除き、2名（野菜関連、稲作関連それぞれ1名）以上の業務従事者が、場内・場外圃場又は業務対象施設内に駐在することとする。ただし、事前に発注者の同意を得た場合を除く。

なお、一般市民向け農業イベント、気候等の理由により、休日に業務を実施する可能性がある。

6. 年間の主要作業 ※別紙5参照

(1) 栽培管理支援

¹¹ 同進捗会議は「セクション会議」と呼ばれ、発注者と研修指導業務委託先との間で実施される。研修実施期間中に研修コースにより週1回（約30分）程度実施する。この会議により週単位での圃場管理・農作業計画が決定される。

場内圃場、温室・網室、場外圃場において、「3. 業務の概要の（2）業務の分類の1）栽培管理」に示した稲、野菜の各品種を、品種の特性や天候等の状況に合わせ、効率的かつ柔軟に栽培管理を行う。なお、栽培に係る研修（実習・実験）についての準備、片づけを含むものとする。

- 1) 野菜・水稻・陸稻の播種・育苗（4～6月、10月下旬～12月上旬）
- 2) 畑の基肥・中耕・定植、耕耘、播種、施肥、除草、収穫等（4～12月上旬、2月下旬～3月）
- 3) 田の基肥、中耕、代掻、田植、施肥、水管理、除草、収穫等（4～6月上旬、11～12月、2～3月）
- 4) 水田・畑・温室の水管理、灌水チューブ・スプリンクラーの設置（通年、繁忙期4～9月上旬）
- 5) 床土作成・材料収集（4月、2～3月、その他適宜）
- 6) ネット・テープ・糸の設置による鳥・虫・兎・風対策（4～12月上旬）
- 7) 米の収穫・乾燥・粳摺・精米¹²・出荷¹³（8月下旬～11月上旬）
- 8) 野菜の収穫・種芋・母球選別・保管・種子生産・管理・出荷¹⁴（4～12月上旬、繁忙期6～12月上旬）
- 9) 圃場・温室の除草・残渣片付け（4～12月上旬、2～3月）
- 10) 圃場・温室の除草・残渣片付け（4月～11月）
- 11) 水田・畑の農薬散布（殺虫剤・殺菌剤・除草剤・消毒）（4～9月上旬、10～12月上旬、3月）

（2）農業機械の操作

（1）の栽培管理を行う上で、必要に応じて別紙3にある機械を用いる。

①研修で使用する圃場準備のために水田、畑の耕耘、中耕、水稻作における代掻き、田植え、水稻の収穫（圃場の使用目的によりコンバイン、バインダー等を使い分ける）、収穫した粳の乾燥等、各農作業の目的に合致した農業機械の利用、②技術研修員の各種農業機械利用実習等に係る農業機械の操作補助の2点が主要業務となる。

（3）施設、農業機械、工作機械、農具、資材の管理

栽培管理の適時・円滑な実施のため、施設、農業機械、工作機械、及び資材を整備・管理する。温室、ビニルハウスは台風等天候による被害が予見される場合に必要な防止策をとる。危険物・農薬等は安全、環境に留意して管理する。

- 1) 農業機械・工作機械、施設の維持管理（通年）
- 2) 資材・農具の洗浄・点検・管理（通年）

¹² 出荷できない端数の玄米を発注者関係者への販売を目的に精米する場合がある

¹³ JA 谷田部に出荷。

¹⁴ 土浦中央卸売青果市場、大同青果市場への出荷、及び発注者関係者への販売を目的に出荷補助を行う。

- 3) 温室とビニルハウス簡易修理・更新（10月、12月中旬～2月中旬等適宜）
- 4) 危険物・農薬・肥料の管理（通年）
- 5) 農業機械のメンテナンス・修理の代理店等依頼等にかかる調整窓口（支払代行を含む）（11～1月等適宜）
- 6) 天井クレーンの管理（通年）、点検（月1回）
- 7) 高圧ガスの点検、使用実績・在庫管理確認
- 8) 資材在庫確認補助、点検、工具等物品補助確認（10月～1月、通年）
- 9) 簡単な農業機具の修繕（通年）

(4) 付帯的な業務

大きく分けて、①基幹作業である野菜、稲以外に発注者が行う農業研修に係る圃場準備・農作業、その他単発的な研修に係る農作業、②発注者が対外的に行うイベント、③研修・訓練、④栽培作物残渣堆肥化や農作業、農業機械の維持管理に伴って生ずる産業廃棄物対応等がある。

- 1) かんがい排水コース関連に伴う作業（実習棟の清掃及び周辺の除草、減水深実験準備、流水実験に係る圃場準備、スプリンクラー試験準備、かんがい用ビニルハウス周辺の除草等）（随時）
- 2) 緑肥小麦の予約（6月）、品種の決定、支払代行・納品確認（11月）
- 3) 単発研修に係る農作業（1～数日／回、年1～2回発生の可能性あり）
- 4) 市民向けイベントの事前の準備：科学技術週間（4月）、田植え祭と収穫祭（5月と9月）、ちびっこ博士（7月）→※別紙6、7参照
- 5) 環境マネジメント研修、緊急事態発生模擬訓練（年1回1時間）
- 6) 栽培作物残渣の堆肥処理（通年で適宜行う）
- 7) 産業廃棄物の測定・運搬（2ヶ月に1回程度）¹⁵

¹⁵ 2017～2019年度の廃棄物の種類及び排出量実績

2017年4月	ビニール・プラスチック・ゴム	40
2017年7月	ビニール・プラスチック・ポリエステル、ゴム等	40
2017年10月	ビニール・プラスチック・ポリエステル等	70
2017年11月	ビニール・プラスチック・ポリエステル等	140
2017年12月	ビニール・プラスチック・ポリエステル・ガラス	150
2018年1月	ビニール・プラスチック・ポリエステル・鉄等	191
2018年3月	ビニール・プラスチック・ポリエステル	50
2017年度合計		681
2018年6月	ビニール・マイカ線等	40
2018年11月	ビニール・プラスチック・ポリエステル・鉄	173
2018年12月	ビニール・プラスチック・鉄	100
2019年2月	鉄くず・ビニール・プラスチック・塩ビ	110
2018年度合計		423
2019年7月	ビニール・マイカ線等	120
2019年11月	鉄	313

- 8) 建物管理業者との施設管理に係る調整（随時）¹⁶
- 9) 気象観測装置周辺の除草（随時）
- 10) 事務処理（通年）

7. 成果物・業務提出物等

(1) 月次報告書（月毎）

報告書に含まれる項目は以下のとおり。

- 1) 施設・機械器具の管理状況（不具合等）
- 2) 農薬と肥料の使用実績と在庫管理状況（野菜、稲作等の分野毎）
- 3) 農薬保管庫／肥料保管庫の巡視点検結果
- 4) 少量危険物貯蔵取扱所（ガソリン、軽油、灯油等）に係る管理記録（使用実績と在庫（残量））およびそれらの保安点検結果
- 5) 高圧ガス¹⁷の点検および使用実績と在庫管理
- 6) 天井クレーン：自主定期検査（稼働点検）・点検記録

(2) 作業実績報告書（四半期毎）

報告書に含まれる項目は以下のとおり。

- 1) 作業実績（作業の計画と実績について、バーチャート等を用いて記載）
- 2) 従事者記録（作業に従事した作業者の配置実績を記載）
- 3) 作業実施に係る特記事項

別紙1：場内圃場図

別紙2：場外圃場図

別紙3：主要機材リスト

別紙4：農薬、肥料の使用実績（2017～2019年度）

別紙5：年間の主要作業

別紙6：田植え祭りポスター（2019年度版）

別紙7：収穫祭ポスター（2019年度版）

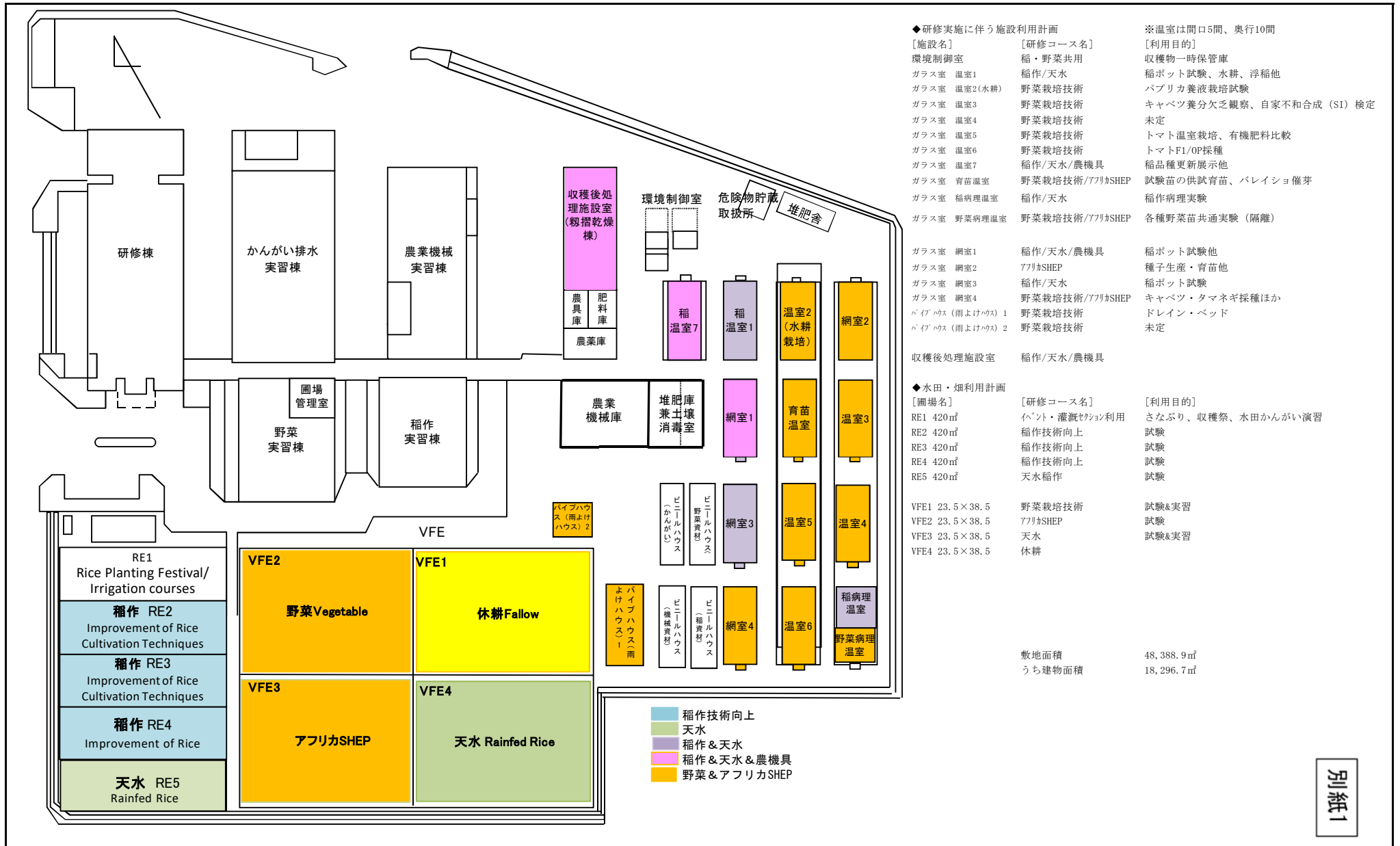
別紙8：補助対象の研修コース及びその研修委託先（2021年度予定）

2019年11月	ビニール・マイカ線等	200
2019年12月	鉄くず・ビニール・プラスチック・塩ビ	240
2020年1月	農薬	99.3
2020年2月	鉄くず・ビニール・プラスチック	150
2019年度合計		1122.3

¹⁶ 施設の電気系統の不具合が発生した場合の対応依頼、栽培管理上、灌水用のポンプを終夜作動させる必要がある場合の管理依頼、巡回中の施設の破損が見つかった場合の連絡等がある。

¹⁷ 高圧ガスは上述注釈のとおり、アセチレンガス、酸素ガス、液化炭酸ガスの3種類を使う。液化炭酸ガスは溶接に使われる。

2020年 場内圃場利用計画



◆研修実施に伴う施設利用計画

[施設名]	[研修コース名]	[利用目的]
環境制御室	稲・野菜共用	収穫物一時保管庫
ガラス室 温室1	稲作/天水	稲ポット試験、水耕、浮稲他
ガラス室 温室2(水耕)	野菜栽培技術	パブリカ養液栽培試験
ガラス室 温室3	野菜栽培技術	キャベツ養分欠乏観察、自家不和合成 (SI) 検定
ガラス室 温室4	野菜栽培技術	未定
ガラス室 温室5	野菜栽培技術	トマト温室栽培、有機肥料比較
ガラス室 温室6	野菜栽培技術	トマトF1/OP採種
ガラス室 温室7	稲作/天水/農機具	稲品種更新展示他
ガラス室 育苗温室	野菜栽培技術/アフリカSHEP	試験苗の供試育苗、パレイショ催芽
ガラス室 稲病理温室	稲作/天水	稲作病理実験
ガラス室 野菜病理温室	野菜栽培技術/アフリカSHEP	各種野菜苗共通実験 (隔離)
ガラス室 網室1	稲作/天水/農機具	稲ポット試験他
ガラス室 網室2	アフリカSHEP	種子生産・育苗他
ガラス室 網室3	稲作/天水	稲ポット試験
ガラス室 網室4	野菜栽培技術/アフリカSHEP	キャベツ・タマネギ採種ほか
バイオハウス (雨よけハウス) 1	野菜栽培技術	ドレイン・ベッド
バイオハウス (雨よけハウス) 2	野菜栽培技術	未定
収穫後処理施設	稲作/天水/農機具	

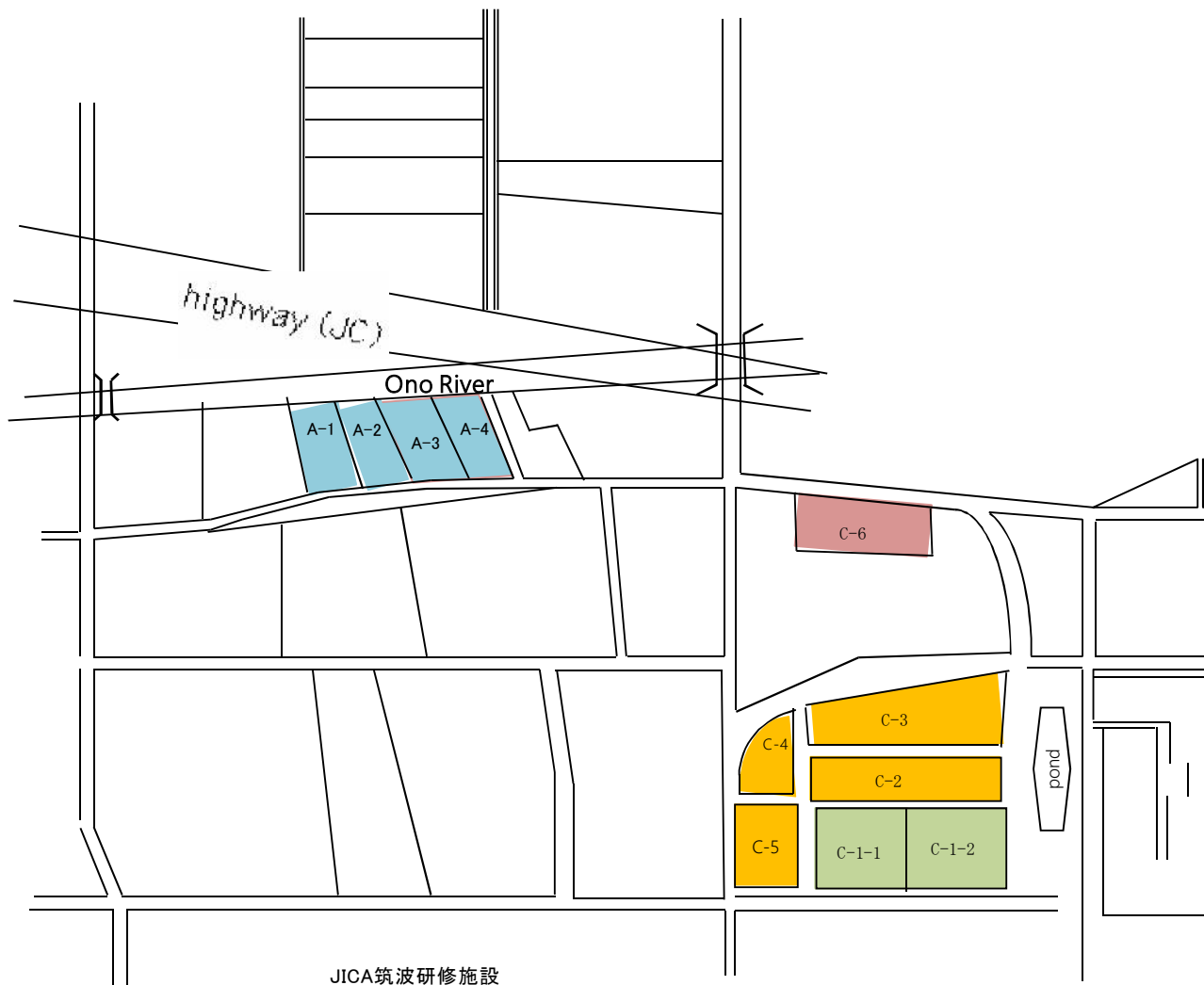
◆水田・畑利用計画

[圃場名]	[研修コース名]	[利用目的]
RE1 420㎡	イベント・灌漑セクション利用	さなぶり、収穫祭、水田かんがい演習
RE2 420㎡	稲作技術向上	試験
RE3 420㎡	稲作技術向上	試験
RE4 420㎡	稲作技術向上	試験
RE5 420㎡	天水稲作	試験
VFE1 23.5×38.5	野菜栽培技術	試験&実習
VFE2 23.5×38.5	アフリカSHEP	試験
VFE3 23.5×38.5	天水	試験&実習
VFE4 23.5×38.5	休耕	

敷地面積 48,388.9㎡
うち建物面積 18,296.7㎡

- 稲作技術向上
- 天水
- 稲作&天水
- 稲作&天水&農機具
- 野菜&アフリカSHEP

2020年 場外圃場利用計画



(1) 水田			
Lot nama	Area (m ²)	Course name	Purpose
A-1	1,600	稲作技術向上	栽培実験・実習
A-2	1,600	稲作技術向上	栽培実験・実習
A-3	750	稲作技術向上	栽培実験・実習
A-4	997	稲作技術向上	栽培実験・実習
合計	4,947		

(2) 畑			
Lot nama	Area (m ²)	Course name	Purpose
C-1-1	2,000	天水稲作のための稲栽培・種子生産及び品種選定技術	栽培実験・実習
C-1-2	2,246	天水稲作のための稲栽培・種子生産及び品種選定技術	栽培実験・実習
C-2	3,500	小規模農家の生計向上のための野菜生産技術 アフリカ地域 市場志向型農業振興(普及員)	栽培実験・実習
C-3	14,529	小規模農家の生計向上のための野菜生産技術 アフリカ地域 市場志向型農業振興(普及員)	栽培実験・実習
C-4	2,081	小規模農家の生計向上のための野菜生産技術 アフリカ地域 市場志向型農業振興(普及員)	栽培実験・実習
C-5	2,645	小規模農家の生計向上のための野菜生産技術 アフリカ地域 市場志向型農業振興(普及員)	栽培実験・実習
C-6	3,095		休耕
合計	30,096		

※契約予定面積と差はトラクター等の農業機械や車両の一時駐車用地や農作業準備用地を含まないことによる。

主要機材リスト

農業機械 (野菜)

No.	機材名	メーカー	型式	備考
1	トラクター	クボタ	GL301	機械庫
2	トラクター	クボタ	LI-28	機械庫
3	トラクター	イセキ	TF5	機械庫
4	テラー	クボタ	TG800	機械庫
5	テラー	イセキ	KLC85	機械庫
6	グレイタスローダ	クボタ	HBKC-1522	機械庫
7	クローラードンプ	筑水キャコム	BP416	機械庫
8	堆肥散布機マキタロウ	アテックス	MSX450	機械庫
9	トレーラー	サンワ	MSA C6	機械庫
10	動力噴霧機	共立	AMP360	機械庫
11	動力噴霧機	丸山	GKSL3300R1	機械庫
12	カッター	丸山	CH-18	機械庫
13	ボトムプラウ	スガノ	ROY 1311	機械庫
14	草刈機	カーツ	MXP330	機械庫
15	ハンマーナイフローター	アグリップ	HRC802A	機械庫
16	発電機	クボタ	SA1500	機械庫
17	発電機	クボタ	SA1000	機械庫
18	プランター	イセキ	PVH-11カウル7	機械庫
19	管理機ロータリー付	イセキ	KC55F	機械庫
20	セットポンプ	イセキ	PE50E	機械庫
21	トレンチャー	KAWABE	NF827LH	機械庫
22	ポテカルゴ	松山	GH651K	機械庫
23	蒸気土壌消毒機	石原工業	EC-100	堆肥所
24	甘藷マルチ	イセキ	MRY97M	機械庫
25	フレールハーベスター	IHIスター	MFH-0930-10	機械庫
26	管理機	三菱	MSD458	機械庫
27	管理機	三菱	MM458	機械庫
28	プラソイラー	スガノ	MPS2	機械庫
29	播種機	ニプロ	MR6	機械庫
30	ポテトプランター	クボタ	TEP100M	乾燥籾摺棟

農 業 機 械(稲作)

NO.	機材名	メーカー	型式	備考
1	トラクター	イセキ	ジ 7AT-33	機械庫
2	トラクター	三菱	GOZ-32	機械庫
3	トラクター	イセキ	ジ 7A23	機械庫
4	トラクター	シバウラ	SD2243	機械実習棟
5	トレーラー	サンワ		機械庫
6	トレーラー	富士トレーラー		機械庫
7	トレーラー	クボタ		機械庫
8	テラー	クボタ	TG750	機械庫
9	耕運機	三菱	MS-67	機械庫
10	耕運機	三菱	MS-68	機械庫
11	耕運機	クボタ	KRA75	機械庫
12	耕運機	クボタ	K120	機械実習棟
13	畦塗り機	富士トレーラー	TF-9	機械庫
14	灌水ポンプ	丸山	CKP252	稲作実習棟
15	ポンプ	丸山	MP5020E	機械庫
16	ポンプ	クボタ	QP206	機械庫
17	ポンプ	ホンダ	WB20X	機械実習棟
18	セットポンプ	カワサキ	PE50FC	機械庫
19	田植機	イセキ	PS-20	機械庫
20	田植機 (さなえ)	イセキ	PS-20	機械庫
21	田植機	イセキ	PG53	機械庫
22	田植機	ヤンマー	RR400	機械庫
23	直播機	みのる	KC55F	機械庫
24	動力噴霧機	共立	AHP360	機械庫
25	動力噴霧機		もあい	機械実習棟
26	動力噴霧機	丸山	GKSL-3301-M	機械庫
27	草刈機	イセキ	CH260	機械庫
28	草刈機	丸山	IAC-26M	機械庫
29	パロネス	共立	HMA80	機械庫
30	コンバイン	イセキ	ビバ 216	機械庫
31	コンバイン	イセキ	F16(1)	機械庫
32	コンバイン	イセキ	F16(2)	機械庫
33	リーパー	クボタ	AR120	機械実習棟
34	バインダ	イセキ	みほRE30S	機械庫
35	バインダ	イセキ	みほ37	機械庫
36	ハーベスタ	クボタ	HS400	機械庫
37	ハーベスタ	イセキ	ケン太87	機械庫
38	平型乾燥機	シズオカ	B33G-10A	乾燥実習棟
39	平型乾燥機	シズオカ	B33G-5A	乾燥実習棟
40	乾燥機	シズオカ	PCG11	乾燥実習棟
41	乾燥機	シズオカ	PCG20	乾燥実習棟

NO.	機材名	メーカー	型式	備考
42	籾摺り機	イセキ	MXP400	乾燥籾摺棟
43	溝切機	オータケ	KF22	機械庫
44	ミニカルチ	オータケ	MA3 (1条)	機械庫
45	ミニカルチ	オータケ	MA3 (1条)	機械庫
46	ミニカルチ	オータケ	MA3 (2条)	機械庫
47	バックホー	クボタ	K-005	機械庫
48	管理機	ヤンマー	MT-2	機械庫
49	管理機	ヤンマー	MTe-30	機械庫
50	グレイスローダ	三菱	HBKC1522	機械庫
51	ウィングハロー	ニプロ	WLS-2200B	機械庫
52	ライムソワー	ニプロ	FT1606H	機械庫
53	ヘッジトリマー	スチール	HS45	機械庫
54	移植機ナプラ	ヤンマー	PN1	機械実習棟
55	フレールモア	コバシ	FM155T	機械庫
56	フォークリフト	トヨタ	GENEO20	乾燥籾摺棟
57	高圧洗浄機	共立	WH1110	機械庫
58	カルチベーター	スキガラ	TC-H	機械庫
59	三畦リッジャー	スキガラ	TCR-H	機械庫

工 作 機 械

No.	機材名	メーカー	型式	備考
1	高速切断機	日立	H-16B	機械棟
2	精密旋盤	WASINO		機械棟
3	スポット溶接機	DAIHEN	SLAJ35-601(S-1)	機械棟
4	吸塵装置付両頭グラインダー	日立	R-10S	機械棟
5	電気棒乾燥機	マツト金属工業	HSN-50	機械棟
6	卓上グラインダー	日立	GBK2	機械棟
7	万能板金折曲機	野口プレス	H-700	機械棟
8	プレスブレーキ	AMADA	RGM2 3512	機械棟
9	MAG自動溶接機	日立	350CS	機械棟
10	プラズマ切断機	ダイヘン	MRCT-50	機械棟
11	卓上ボール盤	日立	BE13RH	機械棟
12	小型万能木工機	日立	A-1000	機械棟
13	シャーリングマシン	相澤鉄工所	N3-1304	機械棟
14	スライス盤	関東工機	KR-10K	機械棟
15	コンターマシン	ANDO SAW	TA300	機械棟
16	直立ボール盤	吉田鉄工所	YD3-65N	機械棟
17	CO2/MAG自動溶接機	ダイヘン	CPXD-200	機械棟
18	タッピング盤	キラ	KRT-10	機械棟
19	ベルトサンダー	リョウビ	B-4000T	機械棟
20	スクリュードライバー	日立	TN-6C	機械棟
21	ベンディングロール	野口プレス		機械棟
22	万能工具研削機	ヤマト機工	CG-200-N	機械棟
23	パイプベンダー	西田製作所	NC700	機械棟
24	ブローワー	日立	RB30V	機械棟
25	電気ディスクグラインダー	日立	G13SH	機械棟

薬剤名		2017	2018	2019
ジマンダイセン	g	840.5	182	417
スコア顆粒水和剤	g		95	80
セイビアーフロアブルF20	mℓ		80	0
ダニコール1000	mℓ	582	258	250
タチガレエースM	kg	1.98		0
タチガレン	mℓ		0	4
ドイツボルドーA	g		1.1	0
トリフミン	g	57.5	55	42.7
バリダシン	mℓ	744	489	475
パンチョTF顆粒水和剤	g	60	40	0
ビームゾル	mℓ	2.4		0
ブイゲットアドマイヤー粒剤	kg	15.2	8.45	9.05
ベトファイター顆粒水和剤	g	30	30	0
ベルコート水和剤	g	10	205	156.66
ベンレートT	g	670	0	0
ホライントライフロアブル	g		43.3	47
Zボルドー銅水和剤	g	20	0	319
モレスタン（水）	g	70	0	27.5
モンカット水和剤	g	12	0	0
ライメイフロアブル	mℓ	65	70	0
ラリー	g	25.8	20	4.2
リドミルMZ(粒2)	kg	0.108	0	0
リドミルゴールドMZ	g	160	50	55
ルーチンアドマイヤー	kg	1		0
ロブラール水和剤	g	58	17	0
イチバン	mℓ	300	300	0
ウインアドマイヤーグレートM(粒)	kg		0.71	0.5
エコホープDJ	g	100		0
ケミクロンG	g	185		0
好ガレエースM（粉剤）	kg	1.98		1.004
タフブロック	g			400
ベンレートT水和剤	g	770	350	250
《除草剤》				
薬剤名		2017	2018	2019
ゴーゴーサン乳剤	mℓ	355		800
ゴーゴーサン（粒）	kg	6		0
バスタ（液）	mℓ	300	1660	2850
ラウンドアップマックスロード	mℓ	14115	12090	24570
MCP液剤	mℓ	300	200	0
イッテツフロアブル	mℓ	1842	260	239.4
エリジャンジャンボ	g		480	120
月光	kg		2.75	0
ゴーゴーサン乳剤30	mℓ	1000		0
ゴーゴーサン粒剤	kg	4.18	7.17	10.6
バサグラン粒剤	kg	3		3
プリグロックスL	mℓ			2700
ホクト粒剤	kg	10.2	0.6	8
銀河粒剤	kg			0.4
ツインスター粒剤	kg			0.4
バッチリ粒剤	kg	2		3
《その他》				
薬剤名		2017	2018	2019
グラミン	mℓ	1362	972	976
ケミクロンG	g	109	1174	110
ダニトロンフロアブル	mℓ	0.5	2.5	0
バスアミド	kg			15
キヒゲン	g	163.5	75	50
グラミンS（展着剤）	mℓ	456.5	412.5	621.1

年間の主要業務

注)研修の実施時期により作付体系(作型)が変更となる場合あり。

	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) 栽培管理支援												
1) 実習・実験・準備・片付け・調査・補助	_____											
2) 野菜・水稲・陸稲の播種・育苗	_____											
3) 畑の基肥・中耕・定植・耕耘・播種・施肥・除草・収穫等	_____											
4) 田の耕耘・基肥・中耕・代掻・田植・施肥・水管理・除草・収穫等	_____											
5) 圃場(水田・畑)・温室の水管理、灌水チューブ・スプリンクラーの設置	_____											
6) 床土作成・材料収集	_____											
7) 鳥・虫・兎・風対策(ネット・テープ・糸の設置)	_____											
8) (米) 収穫・乾燥・籾摺・精米・出荷	_____											
9) (野菜) 収穫・種芋・母球選別・保管・種子生産・管理	_____											
10) 圃場・温室の除草・残渣片付け	_____											
11) 水田・畑の農業散布(殺虫剤・殺菌剤・除草剤・消毒)	_____											
(2) 農業機械の操作												
1) 水田・畑の管理に係る各種農作業に伴う農業機械利用	_____											
2) 各種農業機械利用実習等に係る農業機械の操作補助	_____											
(3) 施設、農業機械、工作機械、農具、資材の管理												
1) 農業機械・工作機械・施設の維持管理	_____											
2) 資材・農具の洗浄・点検・管理	_____											
3) 温室とビニールハウス簡易修理・更新	_____											
4) 危険物・農薬・肥料の管理	_____											
5) 農業機械のメンテナンス・修理の代理店等との依頼にかかる調整窓口	_____											
6) 天井クレーンの管理	_____											
7) 高圧ガスの点検・使用実績・在庫管理確認	_____											
8) 資材在庫確認補助、点検、物品補助確認	_____											
9) 簡単な農業機具の修繕	_____											
(4) 付帯的な業務												

	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1) かんがい排水コース関連に伴う作業（実習棟の清掃及び周辺の除草、減水深実験準備、流水実験に係る圃場準備、スプリンクラー試験準備、かんがい用ビニルハウス周辺の除草等）												
2) 緑肥小麦の予約、品種の決定、購入・納品確認			-									
3) 単発研修に係る農作業												
4) 市民向けイベントの事前の準備	-	-	-									
5) 環境研修と緊急時模擬訓練												-
6) 栽培作物残渣堆肥処理												
7) 産業廃棄物の測定・運搬												
8) 建物管理者との施設管理に係る調整												
9) 気象観測装置周辺の除草												
10) 事務処理												

《業務に必要とされる資格》

必要とされている業務	資格な資格	業務経験年数 (目安)
農業用トラクター運転	普通特殊自動車免許、フォークリフト運転資格、車両系建設機械運転資格等の1つ以上の資格	5年以上
農薬の取扱	一般劇毒物取扱責任者（国家）または農薬適正使用アドバイザー（県）	5年以上
可燃性燃料等の取扱	危険物取扱者（乙種第4号）	3年以上
溶接作業に使用する機器及び資材（アセチレンガス等）取扱	ガス溶接技能、ガス主任技術者	10年以上

業務総括、副総括、業務管理員、特殊作業員、軽作業員の体制(年間2,000人日程度)を想定。

JICA筑波「田植祭」



今年も田植えの季節がやってきました!!

筑波センターでは、アジア・アフリカ・中南米などから日本の農業技術を学びに来ている研修員と地域の皆様向けに、日本の伝統手法による田植祭の開催を予定しています。研修員と一緒に体験する活動を通して、研修員との交流はもちろん、田植えという日本の伝統にも触れてみませんか？

日時：2019年5月18日（土） 10:40-12:30（受付開始：10:20）

場所：JICA 筑波 研修棟玄関前（〒305-0074 茨城県つくば市高野台 3-6）

プログラム

10:20	受付開始
10:40-10:50	開会、プログラム説明
10:50-11:50	田植え体験
11:50-12:25	研修員とイスニック料理の試食
12:25-12:30	閉会

交通案内は JICA 筑波ウェブサイトをご覧ください！

JICA 筑波



<https://www.jica.go.jp/tsukuba>

- * 予約は要りませんので、当日直接会場にお越しください。
- * 小雨決行ですが、大雨の場合は中止致します。
(当日の問い合わせは、JICA 筑波フロントへ：029-838-1111)
- * 水田に入っの作業になるため、汚れてもよい服装でご参加ください。(足洗い場は用意しています。)
- * 本行事中の事故等について当センターでは補償出来ませんので、ご了承のうえご参加ください。
- * 飲み物等は、各自でご持参下さい。(但し、酒類はご遠慮願います。)
- * 研修員とは、日本で学んだ知識や技術を、帰国後、自国の発展に活かすために研修を受けている行政官や研究者、技術者たちです。
筑波センターでは開発途上国からの研修員の受け入れをしています。

主催：独立行政法人国際協力機構

筑波センター(JICA 筑波)

お問合せ：研修業務課 西岡 TEL:029-838-1744 または

連携推進課 篠原 TEL:029-838-1144



JICA筑波「収穫祭」



今年も稲刈りの季節がやってきました!!

JICA 筑波では、アジア・アフリカ・中南米などからの研修員を対象とした農業研修を実施しています。稲作分野の研修では、研修員が栽培した稲が収穫時期を迎えています。開発途上国から来た研修員と、稲刈りを通じて国際交流をしませんか？

日時：2019年9月14日（土） 10:30-12:30（受付開始：10:15）

場所：JICA 筑波 研修棟玄関前（〒305-0074 茨城県つくば市高野台 3-6）

プログラム

- 10:15 受付開始
- 10:30-10:50 開会、プログラム・稲刈り説明
- 10:50-12:00 稲刈り体験
- 12:00-12:25 研修員とイスニック料理の試食
- 12:25-12:30 閉会

※小学生以下のお子様には、稲刈りではなく稲を干すお手伝いをお願いします。



- * 予約は要りませんので、当日直接会場にお越しください。
- * 小雨決行ですが、大雨の場合は中止致します。（当日の問い合わせは、JICA 筑波フロントへ：029-838-1111）
- * 長袖シャツ、長ズボン、長靴、帽子、タオル、軍手を着用・持参して下さい。汚れてもよい服装で！
- * 本行事中の事故等について当センターでは補償出来ませんので、ご了承のうえご参加ください。
- * 飲み物等は、各自でご持参下さい。（但し、酒類はご遠慮願います。）
- * 研修員とは、日本で学んだ知識や技術を、帰国後、自国の発展に活かすために研修を受けている行政官や研究者、技術者たちです。
筑波センターでは開発途上国からの研修員の受け入れをしています。



主催：独立行政法人国際協力機構
筑波センター(JICA 筑波)

お問合せ：研修業務課 西岡 TEL:029-838-1744 または
連携推進課 篠原 TEL:029-838-1144

JICA 筑波の最新情報、交通案内は
Facebook、Web サイトをご覧ください！



● Facebook



● Web サイト

JICA 筑波

2021年度 補助対象の研修コース及びその研修委託先

	研修コース名	研修期間 (月) Duration (month)	第1四半期 1st Quarter			第2四半期 2nd Quarter			第3四半期 3rd Quarter			第4四半期 4th Quarter			委託機関/主要受入れ機関 (Main implementation partner)	定員
			4月 Apr	5月 May	6月 Jun	7月 Jul	8月 Aug	9月 Sep	10月 Oct	11月 Nov	12月 Dec	1月 Jan	2月 Feb	3月 Mar		
1	小規模農家の生計向上のための野菜生産技術	8.9	2021/2月上旬-2021/11月												国際耕種(株)	12
2	稲作技術向上	7.8	2021/3月上旬-2021/10月下旬												未定	12
3	灌漑施設の維持・運営管理	2.0							2021/9月上旬-11月上旬						(一社)海外農業開発コンサルタント協会(ADCA)	14
4	天水稲作のための稲栽培・種子生産及び品種選定技術	7.7	2021/3月上旬-2021/11月上旬												(一社)海外農業開発協会(OADA)	12
5	アフリカ地域 市場志向型農業振興(普及員)	5.2	2021/3月上旬-2021/9月上旬												(一社)海外農業開発協会(OADA)	10
6	小規模農家の生計向上のための野菜生産技術	9.2										2022/2月上旬-2022/11月上旬			未定	12
7	稲作技術向上	-										2022年3月上旬~10月			未定	12
8	天水稲作のための稲栽培・種子生産及び品種選定技術	-										2022年3月上旬~11月			(一社)海外農業開発協会(OADA)	12